

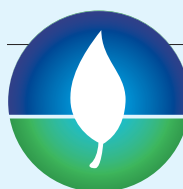
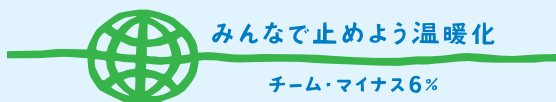
Top Message

トップメッセージ



富士重工業(株)代表取締役社長 森郁夫(右)、専務執行役員 高木俊輔

スバルも「チーム・マイナス6%」に参加しています。



環境シンボルマークについて

2005年6月に、当社はスバルグループの環境シンボルマークを設定しました。マークの中心に「葉」をデザインし、「緑の大地」と「青い空」の地球をコンセプトとし、当社の環境方針に述べられている「地球と社会と人にやさしい商品と環境づくり」に積極的に取り組んでいく想いをこのマークに込めています。

「企業市民」としてのさまざまな社会問題に対処することが当社の使命です

富士重工業株式会社
代表取締役社長

森 郁夫

代表取締役社長の森郁夫でございます。

本書に関心をお持ちいただきました皆さまに感謝を申し上げます。

さて、2007年2月28日に2007年度から2010年度までの4年間を対象とした新中期経営計画を公表いたしました。この新中期経営計画は、これまでどおり「存在感と魅力ある企業」を狙いとして、「社会的責任を全うする企業」、「社会環境変化にあわせた魅力ある個性的な商品の提供」等を経営ビジョンに、「すべてはお客様のために」をキーワードとして企業価値向上を目指すものでございます。

CSRは、企業活動そのものであると認識するとともに、スバルの事業活動を通じてさまざまな社会問題に対処することが、「企業市民」としての当社の使命と考えております。そのためには、ステークホルダーの皆さま、そして社会からゆるぎない信頼を得られる企業になることが必要不可欠であると考えており、次のことを積極的に進めてまいります。

まず、お客さまのご要望やご期待にお応えするため、企業風土を「お客さま第一」の体質に変えてまいります。スバルグループすべての従業員がお客さま本位の考え方で行動し、商品、品質、サービスを含めたすべての段階において、お客さまにご満足いただける企業になることを目指してまいります。

次に、クルマを中心とした輸送機器メーカーとして、地球温暖化をはじめさまざまな環境問題に対し、事業活動のあらゆる段階を通じてこれまで以上に積極的な取り組みを進めてまいります。特に、商品に関しましては、「快適・信頼の新しい走り」と地球環境の融合を図ってまいります。『2007社会・環境報告書』を通じて、当社の社会や環境に対する取り組みをご理解いただくとともに、忌憚のないご意見を頂戴できれば幸甚でございます。

CSRの考え方と行動をこれまで以上に社内に啓発浸透させてまいります

富士重工業株式会社
代表取締役専務執行役員

高木俊輔

代表取締役専務執行役員の高木俊輔でございます。

CSR委員会および総合環境委員会の委員長としてひと言ご挨拶させていただきます。

当社の新中期経営計画では、「社会的責任を全うする企業」を経営ビジョンの柱の一つにいたしました。

一方、2006年度に実施したCSR社内意識調査でCSRに関する認識、浸透に対する改善課題を把握することができました。2007年度はこれらに対処すべく、「CSR方針」の理解に加え「攻めのCSR（本業を通じた社会貢献）」と守りのCSR（法令順守）」という行動と考え方をこれまで以上に社内に啓発浸透させてまいります。

さて、地球環境問題に関しましては、2006年度が第3

次環境ボランティアプランの最終年度となりました。残念ながら、市場動向や開発方針の変更の影響によりクリーンな商品の一部（自動車燃費の向上、排気ガスのクリーン化およびクリーンエネルギーを利用した商品開発）で目標に届かない結果となりました。

これらの項目に関しましては2007年度から新たにスタートする第4次環境ボランティアプランにおいて早期に達成すべく、これまで以上にクリーンな商品を、クリーンな工場から、クリーンな物流により、クリーンな販売店を通してお客さまにお届けし、商品を通じて社会に貢献することを目指してまいります。

今後とも、スバルをよろしく願い申し上げます。

Introduction of SUBARU

事業紹介

独創的な先進技術で、時代のニーズに対応した商品を開発・製造。



新型インプレッサは、優れた環境性能を追求し、広い居住空間と取り回しの良さを両立しながら、走りの愉しさを実現。(写真はインプレッサ15S)



高性能でコンパクトな電気自動車「R1e」。短時間で急速充電が可能です。温室効果ガスの排出を低減する技術として高く評価され、「平成18年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」*3を受賞しました。



「エア・タクシー」と呼ばれる新しい輸送需要を担う低価格の小型ビジネスジェット機として注目される「エクリプス500」。当社は最新の製造技術を活かしてその主翼の組み立て等を担当、航空機の大量・低コスト生産技術の確立を目指しています。

■「すべてはお客さまのために」という姿勢で商品を提供 スバルオートモーティブビジネス

【所在地】群馬製作所(群馬県太田市)
東京事業所(東京都三鷹市)

スバルは1953年に軽自動車の先駆けとなった大ヒット商品「スバル360」の発売以来、1966年日本で初めて本格的FF方式を採用し水平対向エンジンを搭載した「スバル1000」を発売。さらに1972年日本初の乗用AWD車*1「レオーネ1400エステートバン4WD」、さらに世界で初めて実用化に成功した高効率な無段変速機ECVTを搭載した「ジャスティ」を発売するなど、その独創的なメカニズムで熱烈なファンを獲得。さらに1990年代以降、日本ではハイパワーターボエンジンとAWDを組み合わせた高性能ステーションワゴン、米国では乗用車の快適性とSUVの機能性を融合させた「クロスオーバー」*2という分野を切り開いてきました。

「走り極めることは安全を極めること」というクルマづくりの思想と、「すべてはお客さまのために」という姿勢のもと、現在はレガシィ、インプレッサ、フォレスター、トライベッカをラインナップ。さらに軽自動車のステラ、R1、R2、プレオ、軽貨物車のサンバーなど充実した商品により、多くのお客さまの支持を集めています。

■航空機づくりの技術とスピリットを今に活かす 航空宇宙カンパニー

【所在地】宇都宮製作所(栃木県宇都宮市)
半田工場(愛知県半田市)

富士重工業の原点は、1917年に創設された航空機メーカー「中島飛行機」。以来、航空宇宙カンパニーでは航空機づくりの技術とスピリットを受け継いで日本の航空宇宙産業をリードし続けています。主翼などの複合材を含む航空機構造体の開発技術や、無人機分野でのIT技術や飛行制御技術を融合した高度システムインテグレーション技術など独自の技術を磨き、ヘリコプター、固定翼機、無人機、さらには大型旅客機の重要部位などを開発・生産しています。これまで培ってきた独創的で先進的な技術のもと、世界的に存在感のある企業への発展を目指し、常に新たな分野へ積極的に挑戦しています。

*1 AWD : All Wheel Drive 4輪駆動

*2 クロスオーバー : 1995年8月ステーションワゴンにSUVの機能性を融合させたスバルアウトバックを発売。

*3 富士重工業(株)、東京電力(株)、NECラミリアンエナジー(株)の3社によるR1eと電池・急速充電器の共同開発に対し賞を授与されました。

富士重工業株式会社は、スバル[SUBARU]ブランドのもと、自動車およびその部品を開発・製造する「スバルオートモーティブビジネス」をはじめとして「航空宇宙カンパニー」「産業機器カンパニー」「エコテクノロジーカンパニー」の4つの事業部門からなる総合輸送機器メーカーです。その独創的な先進技術と個性により世界中の顧客から確固たる支持を得ています。



プロユースにも応える充電式草刈機「e-カッターPRO」は、独自に研究開発したスバルインバーター発電機の技術を活かした製品。電気自動車「スバルR1e」の技術を転用した大容量リチウムイオン電池を採用して環境配慮と実用性の両立を実現しています。その特徴である排気ガスゼロに加え、低騒音・低振動で作業者に優しく作業効率も大きく向上しました。



環境にやさしい新型エンジンを搭載したスバルインバーター発電機。軽量・コンパクト・簡単操作でありながら、パソコンにも使える高品位出力と低騒音・省燃費を実現しました。



新型二層式分別塵芥収集車は、ごみ投入口が左右に分かれ、2種類のごみを別々の荷室に収容し別々に排出することができます。2種類のごみを収集できるため分別収集に1台で対応でき、車両の増車、人員の増員を必要としない経済的で高効率な収集が可能になりました。



当社が開発した風力発電システムは、定格出力2,000kW、1,500世帯分の電気を発電する大きなもので、吹上げ風を最大限に利用するダウンウインドローターを、大型商用機として世界初採用。また輸送のしやすさを考慮し大きく重いナセル等を分割できる構造としています。こうした先進性、将来性が高く評価され「平成18年度第11回新エネ大賞 資源エネルギー庁長官賞」を受賞しました。

2005年12月に茨城県神栖市の海岸に設置した実証機の試験は成功裏に終了し、それを受けて2007年夏の完成目指して量産機の製作が進んでいます。

■地球のあらゆる場所で使われる汎用エンジンを量産 産業機器カンパニー

【所在地】埼玉製作所（埼玉県北本市）

産業機器カンパニーでは、年間約100万台の「ロビン」ブランドの汎用エンジンやそれを搭載した商品を生産しています。ロビンエンジンは社会の基盤をつくる建設機械や農業機械をはじめ、豊かな生活を彩るレジャー機器、厳しい自然環境の中で暮らしを支える除雪機、発動発電機など、全世界でさまざまな機械、機器に搭載され、皆さまにご愛顧いただいています。酷暑、極寒、砂漠、水上など地球上のあらゆる場所で常に安定して働き続ける製品をつくるために過酷な環境で試験を繰り返して開発をしています。

■住みよい環境と資源循環型社会に貢献する エコテクノロジーカンパニー

【所在地】宇都宮製作所（栃木県宇都宮市）

スバルでは、環境の世紀を見据えた技術開発を推進しています。なかでもエコテクノロジーカンパニーでは、廃棄物の収集運搬やリサイクル処理のための各種車両・装置をはじめとして、住みよい環境と資源循環型社会に貢献するさまざまな製品を手がけています。また自然エネルギーを活用し地球温暖化防止に大きく貢献する風力発電システムも開発。製品を通じて地球環境保全に全力で取り組むカンパニーです。



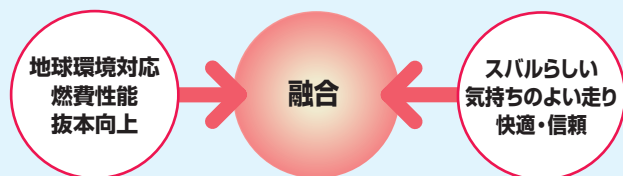
アウトバック 2.5i S-Style

SUBARU Originality

快適・信頼の新しい走りと地球環境の融合を目指して。

スバルのクルマづくりの基本思想

クルマと生きる幸せをすべての人々と分かち合うために、「走り」と「安全」そして「環境」を高いレベルで融合させた商品を開発し、お客さまに「感動」を提供する。それがスバルの開発理念です。そのためスバルでは、独自の水平対向エンジンを核としたSYMMETRICAL AWDシステムのほか軽量・高剛性ボディといったコア技術に磨きをかけてきました。「クルマと人、社会、環境が調和した豊かな社会の実現」。この理想を目指してスバルはこれからもお客さま第一の姿勢で商品開発に挑戦していきます。



「スバルだからこそできる魅力的な価値提案」のために

- お客さまのすべてが気持ちよいと感じられる走りの追求
- お客さまのすべてが安心だと感じられる信頼の追求
- お客さまのすべてが使いやすいと感じられる機能の追求
- 美しい地球を次世代へ引き継ぐ環境性能の追求
- 機能を表現する知的でスポーティなデザインの追求



極限での戦いを市販車にフィードバック 「WRCチャレンジ」

スバルがWRC[世界ラリー選手権]に挑戦する理由。それは市販車と同じSYMMETRICAL AWDを基本構造とするマシンで参戦することで、あらゆる路面条件、気象条件での極限の戦いで得た貴重な技術や経験を市販車にフィードバックするためです。お客さまの命を乗せて走るスバル車には、世界の舞台で磨き込まれたコアテクノロジーが受け継がれているのです。

●スバルのコア・テクノロジー



■軽量・コンパクト・低重心が特徴

「水平対向エンジン」

スバルは、水平対向エンジン「SUBARU BOXER」を理想のパワーユニットと考えています。ピストンが水平に向き合う形で配置されたこのエンジンは、ピストンの運動に伴って発生する慣性力を、対向するピストンが互いに打ち消し合う特性があるため、回転バランスに極めて優れ、高回転域まで滑らかに吹け上がるフィーリングを得ることができます。また、エンジン全高が低く軽量・コンパクトなことから低重心化に貢献し、優れた重量バランスによって意のままのコーナリングを可能にしています。このスポーツユニットとしての優れた資質は、まさに航空機エンジニアリングの思想を共有する、スバルのオリジナリティそのものです。スバルではこの水平対向エンジンにAVCS（可変バルブタイミング）や可変吸気システムを組み合わせ、低燃費・環境対応に優れた性能を引き出しています。



■あらゆる状況下で卓越した走行性能を実現—アクティブセーフティに貢献

「SYMMETRICAL AWD」

スバルは、核となる駆動システムとして4輪駆動（AWD=All Wheel Drive）にこだわり続けています。水平対向エンジンと左右対称（SYMMETRICAL）のパワートレーンで構成された独自のAWDレイアウトは、水平対向エンジンのもたらす低重心と、エンジンやトランスミッションなどの重量物を車体中心近くに集めることで実現する優れた重量バランスがAWDの能力を最大限に引き出し、さまざまな状況下で卓越した走行性能を発揮します。さらにシンプルなレイアウトは、サスペンションやボディフレームを最適に配置することを可能とし、クルマの総合力を高めることに貢献しています。SYMMETRICAL AWDにはクルマの理想を追求するスバルの意志が込められているのです。



■相反する要素を高次元で融合—燃費性能に貢献する

「軽量・高剛性ボディ」

衝突安全性能や快適性を向上させるために求められる高いボディ剛性。しかし、それにともない重量が増加すれば、加速性能や燃費を悪化させ、ブレーキ性能・走行安定性にも悪影響を及ぼします。この軽量かつ高剛性という相反する要素を高次元で融合し、走り・安全性・環境性能・快適性の優れたバランスを実現するために、スバルではボディ開発に技術の粋を結集して取り組んでいます。ボディのアルミ化、高張力鋼板、テラードブランク材^{※1}など軽量化・高剛性化に貢献する素材を多用し、軽量化によるエンジンパワーの効率化がもたらす、走る歓びと燃費性能の両立。「軽量か高剛性か」の二者択一を超えることで実現する理想的な性能を目指して挑戦を続けます。

※1 異なる鋼板を効果的に配置して溶接・プレス成形した部材。